

未来をデザインする
MOT



RITSUMEIKAN
INNOVATION
SCHOOL

立命館大学 大学院
テクノロジー・マネジメント研究科



立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科

[お問合せ]

立命館大学 OIC 独立研究科事務局(テクノロジー・マネジメント研究科事務局)

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150

TEL:072-665-2100 / E-mail:motkoho@st.ritsumei.ac.jp

<https://www.ritsumei.ac.jp/mot/>



2024年10月発行

RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

Ritsumeikan Innovation School

2025年度始動!

2025年、立命館MOTは、 立命館イノベーションスクールへ。

立命館MOT(Management of Technology)は、
技術経営とイノベーションを探究する大学院として2005年に誕生し、
修了生数は910名(前期課程853名、後期課程57名)に達し、
国内有数の技術経営大学院として成長を遂げてきました。
創立20周年となる2025年、
立命館MOTは新カリキュラムを導入し、
「立命館イノベーションスクール」として生まれ変わります。

研究科概要

名称	テクノロジー・マネジメント研究科 テクノロジー・マネジメント専攻	
課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
学位	修士(技術経営)	博士(技術経営)
入学定員	70名	5名
標準修業年限	2年	3年
キャンパス	大阪いばらきキャンパス	

All for innovation, innovation for all.

立命館大学大学院
テクノロジー・マネジメント研究科 研究科長
湊 宣明 Nobuaki MINATO



立命館イノベーションスクールが選ばれる理由 — 個性の尊重、多様性の確保、実践の重視 —

なぜ立命館イノベーションスクールが選ばれるのか。その理由は3つあると考えます。個性の尊重、多様性の確保、実践の重視です。

第一に、我々の大学院は、学生の個性を尊重し、個人がやりたいことを自由に探究できる時間と場所を提供しています。一般的な理系の大学院では教員主導で研究テーマを設定することが多いと思います。しかし、立命館イノベーションスクールでは、原則として学生個人がそれぞれの問題意識を出発点として研究テーマを選択します。そのため、この大学院で扱うテーマは最先端の技術やビジネスから人間の感性、国際的な社会問題まで多岐にわたります。さらに、複数の教員がその研究を支援する指導体制は2005年の設立時から変わっていません。まさに学生の個性を中心に据えた大学院といえるでしょう。

第二に、我々の大学院にはきわめて多様な学生が集まっています。理系学生と文系学生、学部進学者と社会人経験者、日本人と留学生などが、講義中にグループを形成して学び合います。バックグラウンドの異なる学生がもたらす多様な価値観と知識が融合し、互いに刺激を与え合うことで、イノベーションの源泉となる斬新な発想が生まれ出されます。この融合環境を維持するため、研究室毎の独立した部屋と机を用意するのではなく、あえて大部屋方式を採用し、異なる研究室の学生が机を並べて自由に交流できるよう配慮しています。イノベーション研究の大家であるシュンペーターは「新結合こそが革新を生み出す」と主張しました。偶然の出会いや新しい組み合わせが自然に生まれる環境を大学院に作り出しています。

第三に、我々の大学院は、講義で理論としての知識を学ぶだけでなく、知識を実践で使う経験を重視した教育設計をしています。MOTの研究者・実務家であるクリス・フロイドは「テクノロジー(技術)とは知識そのものではなく、知識の応用化である」と述べています。つまり、知識を問題の解決に応用できるようになってこそ、テクノロジーをマネジメントしたと言えるのです。そのため、多くの講義では過去の実例を基にしたケーススタディーやグループ演習を行うほか、商品企画やサービスデザイン、新事業開発、生産管理、プロジェクトマネジメントを疑似的に体験する機会も豊富です。さらに、課題解決型長期企業実習(プラクティカム)では、今まさに企業等が実務で直面する課題に対して、チーム一丸となってソリューションを設計し、経営陣にプレゼンテーションする機会を得ることができます。イノベーションを興すための実践的なトレーニングがこの大学院にすべて揃っているといえるでしょう。

すなわち、立命館イノベーションスクールは、価値観と専門性が多様に融合する環境で、個人がやりたいことを発見し、未来に向けて自己実現できる大学院として、これからも社会に貢献し続けます。大学院で学ぶことは、一定の金銭的・時間的・体力的な投資を要する、覚悟の必要な意思決定です。しかし、皆さんが経験する前期課程の2年間、後期課程の3年間は驚くほどのスピードで過ぎ去り、人生においてかけがえのない経験価値をもたらすと確信できます。我々の大学院で技術経営学という新しい学問に出会い、熱意にあふれた同級生と学び合いながら、それぞれの人生にイノベーションを興していただきたいと思います。

All for innovation, innovation for all.
(すべてはイノベーションのために。イノベーションは皆のために。)

Features 立命館イノベーションスクールの特徴

文理融合の開講科目

技術経営の基礎として、戦略論や組織論などの経営学、さらに統計、数理、ケーススタディなどの方法論について、幅広く学ぶことができる授業科目が提供されています。



実務経験豊富な教員・講師陣

メーカーや金融機関、コンサルティング会社などで実務を経験した教員が揃っています。また、現役の企業人を客員教授やゲストスピーカーとして招いており、業界を越えた知識や俯瞰的な視点を学ぶチャンスにあふれています。



多様な学生とのインタラクティブな講義

ワークショップやグループディスカッション、プレゼンテーションなど、インタラクティブな手法を取り入れています。社会人学生・留学生など多様なバックグラウンドを持つ学生同士が議論を戦わせます。



企業でのアクションラーニング(プラクティカム)

理論と実践の習得をめざして、インターンシップを発展させた「プラクティカム」を実施しています。その特徴は、企業が抱える課題に学生が取り組む「課題解決型長期企業実習」です。



クォーター制の採用

1年を4期に分けるクォーター制を導入しています。1科目あたり180分の講義を8回(2025年度から「190分×7回」、約2ヶ月で履修できます。仕事が比較的忙しくない時期に集中して学ぶことが可能です。夏期集中やセメスター制で運用している講義もあります。

社会人学生のリスクリングを促進する時間割

社会人学生にも受講しやすい平日夜間と土曜日に講義・ゼミを多く配置します。さらに社会人学生には、オンラインでも受講可能なハイフレックス型の講義を展開することで、スムーズな履修・修了をサポートします。

6限:18時25分~20時00分 7限:20時10分~21時45分

複数指導教員体制

MOTの研究範囲は広範囲におよび、技術戦略、ファイナンス、知的財産、組織戦略などを複合的に考察しなければなりません。そのため、複数名の教員で指導する体制をとっています。演習(ゼミ)指導や論文の主査となる教員以外に、複数の教員から指導を受けることが

可能です。実際、メインとなる演習(ゼミ)に関わらず、他のゼミにも顔を出す学生が多く存在します。教員同士が連携をとり、課題解決に最適な解を見出せる体制を確保しています。積極的に多様な教員のリソースを活用してください。

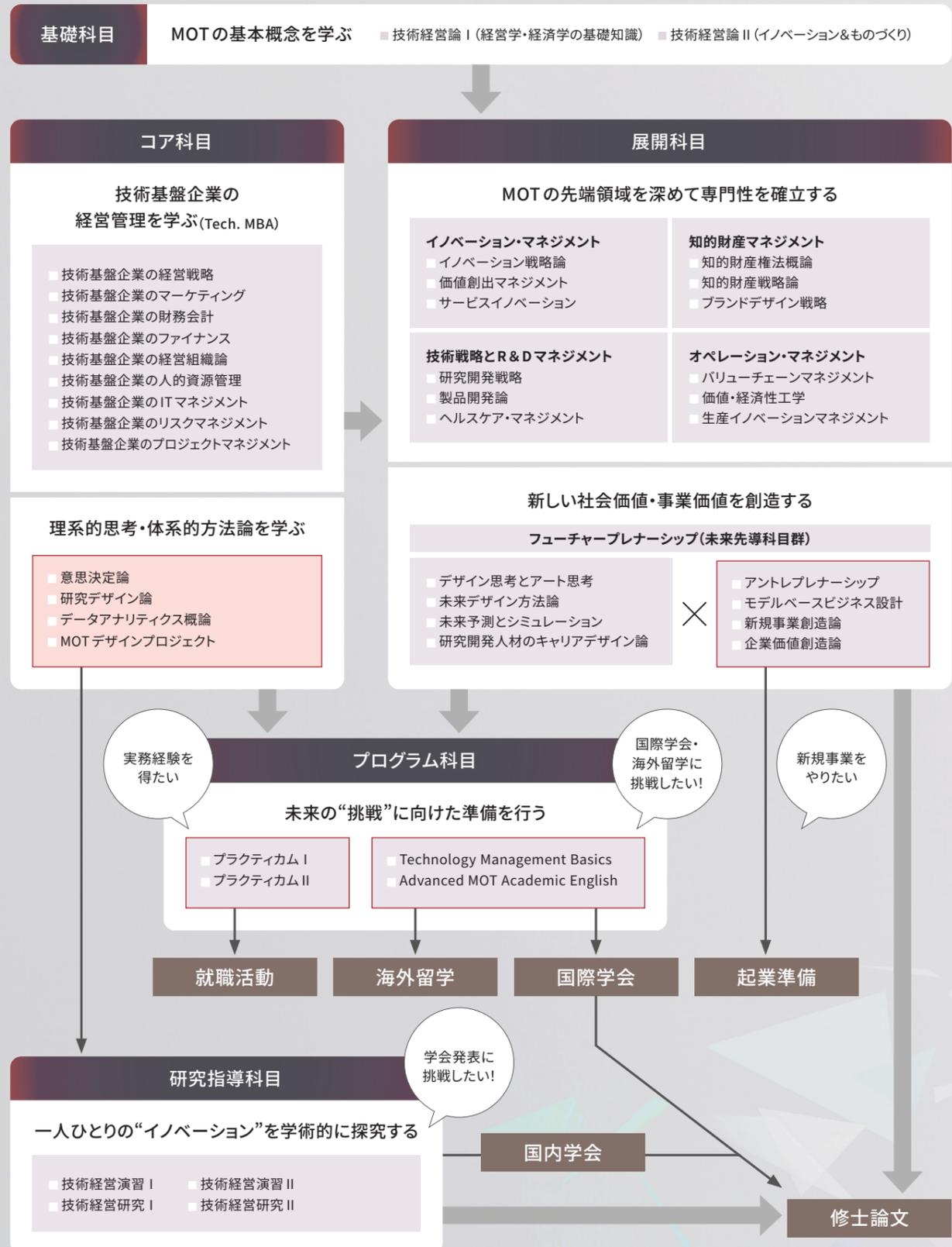


2025年度入学生からの新カリキュラム

立命館MOTは、2025年度から「Ritsumeikan Innovation School」として始動することとし、合わせて新しいカリキュラムを導入します。新カリキュラムでは、学生がやりたいことを発見し、未来をデザインして先導するために役立つ方法論を学ぶ専門科目として「未来先導系科目群(フューチャープレナーシップ)」を新たに開設します。

未来をデザインするための専門能力を身に付ける科目を新設するとともに、未来における価値創造をリードし、社会を先導する観点からこれまで設置していたアントレプレナーシップ系科目を再編し、「未来先導系科目群(フューチャープレナーシップ)」に統合します。また、マネジメントに強い理系出身者を育成することを目的として、理系出身者が技術を基盤としたマネジメントスキルを体系的に習得できる科目群を設置しています。

Curriculum カリキュラム(博士課程前期課程)



Practicum プラクティカム

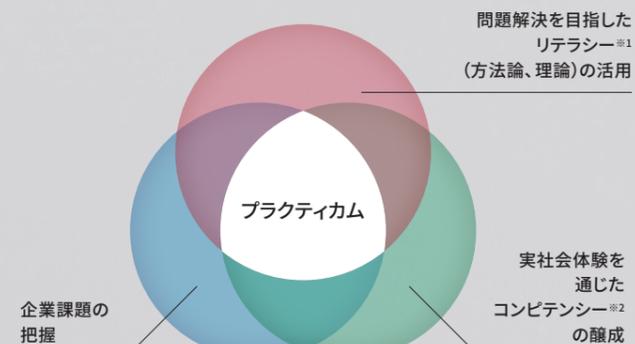
コンセプト

立命館イノベーションスクールは、「技術とビジネスを結び、新しい価値を創造する」イノベーションを主導し、新事業や新市場を創出する将来のリーダー養成を目指して、社会人学生と学部等から進学した学生が共に学んでいます。「理論と実践の習得」をめざし、当研究科ならではの実習として、インターンシップを発展させた「プラクティカム」を実施しています。その特徴は、「実習先で企業等の仕事を体験する」一般的なインターンシップとは異なり、企業が抱える課題に学生が取り組むという「課題解決型長期企業実習」です。



目指す教育効果

- 1 企業等において、どのような課題が存在し、どのように解決しようとしているかを知る。
- 2 講義で学習した理論や方法論を企業における課題解決に適用する。
- 3 企業等での課題解決の体験を論文研究にフィードバックする。



※1 知識を利用して問題解決する力 ※2 経験を積むことで身についた行動特性、判断基準

プラクティカムの特徴

課題解決型

「プラクティカム」の最大の特徴は、企業などが実際に直面している課題に講義で学習した知識を適用する「課題解決型実習」だということです。企業が解決を求めている課題と学生の研究対象がマッチングすることで、はじめて成立する実習です。

教員の指導

立命館イノベーションスクールの教員が、課題設定、アプローチ設計、調査研究、成果の取りまとめをサポートすることで学生は高いレベルでMOTの理論や方法論の実践を体験できます。

長期(3ヶ月～6ヶ月)

期間が3ヶ月～6ヶ月と長いので、企業、ビジネスの実態をじっくりと知ることができ、実習先の担当者と一緒に深く関わる機会があります。

プラクティカム

協力企業

(過年度実績)

- JAXA (独立行政法人 宇宙航空研究開発機構)
- パナソニックコネクタ(株)
- オムロン(株)
- (株)安井建築設計事務所
- 日本電産(株)
- 三菱電機(株)
- 大日本スクリーン製造(株)
- (株)イシダ
- アビームコンサルティング(株)
- ローム(株)

※一部

プラクティカムでは、実際のビジネス環境で学びを得られます。また、現実のプロジェクトを企業と連携しながら取り組む機会が提供され、活きたプロジェクトを通じてマネジメント能力や課題解決能力を身につけることができました。異なるバックグラウンドを持つメンバーと協力し、意見の調整や役割分担を経験する中で、コミュニケーションスキルやリーダーシップの大切さを再認識しました。特定の業界知識がない状態から始め、限られた時間内で成果を出すため、効率的な情報収集が求められましたが、企業の方や担当の先生との連携によりプロジェクトを完遂することができました。今後は、プラクティカムで得た問題解決力などのスキルを活かして研究科での学びも深め、将来は新しい挑戦にも柔軟に対応し活躍したいと思っています。

ZHOU Xiyaoさん 博士課程前期課程2回生



Voice 立命館イノベーションスクールを選んだ学生の声



01 実務と学術、双方からのマネジメントが実現

パナソニックホールディングス株式会社 課長 博士課程前期課程2回生
川川有さん

技術革新が絶えず求められる昨今において、組織のイノベーション創出を高めるマネジメントの深化のみならず、新しいアイデアを持続的に生み出し、実行に移せる自律的人材の育成が重要です。これらを理論に基づき体現したいと考えて入学を決めました。立命館MOTでの学びを通じて、実務でのマネジメントに学術的な視点も加わり、広い視野での判断が出来るようになって実感しています。MOT研究科の特徴は、学生が多様性に富んでいることです。授業でのグループワークやディスカッション等の交流を通じて新しい価値観を得ることができるので、自身の考えのアップデートに役立っています。

02 仕事に関連する研究を働かしながら進めることができる

ヤンマーパワーテクノロジー株式会社 電動化推進部 戦略G 博士課程後期課程3回生
福留未菜さん

入社以来、産業用ディーゼルエンジンの開発業務に携わってきました。エンジンから電動化へのシフトが進む中、市場要求と技術の双方を把握しながら商品コンセプトを創造することに興味をもち始めました。技術を活かすマネジメントを体系的に学ぶだけでなく、仕事内容に関連する分野の研究を働かしながらでも進められる環境と指導教官の理解があったことで、後期課程に進学しました。現在は、電動化の普及とカーボンニュートラル達成の関係について、システムダイナミクスを用いた研究を行っています。MOT進学をきっかけに、多様化する産業用パワーソースの商品戦略立案へと担当業務が変わり、授業で学んだ手法を翌日から実践するなど自律的に取り組んでいます。

03 価値ある製品の創出に多種多様な意見が活きる

立命館大学 理工学部出身 博士課程前期課程2回生
鷺坂幸祐さん

市場には様々な製品がありますが、残り続ける製品、価値ある製品の創出には、「アイデア出し」という工程が重要です。社会ニーズに応え、技術力を活かすことで価値ある製品を生み出していく方法を学ぶためにMOT研究科に進学し、アイデア創出法のシナリオ生成を改善する研究を行っています。将来はプログラミングや設計などの理系の知識に留まらず、MOTを活かして製品開発の上流・下流に関わる仕事に就きたいと考えています。MOT研究科の学生は、多種多様で考え方や知識にも違いがあります。授業内でのグループディスカッションでは、別の角度からの意見を多く聞くことができるので、貴重な経験を得られ、深く考えさせられる点がとても有意義です。

04 学びを拡げ、デジタル推進社会を牽引

立命館大学 情報理工学部出身 博士課程前期課程2回生
渡邊優佳さん

学部生の頃から学んできた機械学習やソフトウェア開発の技術が、実社会でどのように活用できるのか学びたいと思い、MOTへの進学を決めました。現在は、「教育のDX」をテーマにして、ケースメソッドに生成系AIを活用することの効果を研究しています。情報理工学部で身につけたIT技術の知識とMOT研究科での学びを活かして、将来はITを存分に活用したDX推進に携わりたいと考えています。MOT研究科では、異なる専攻から来た学生、留学生や社会人など様々なバックグラウンドを持った人と関わる機会が多く、多くの刺激を受けられます。プラクティカムなどの制度もあり、企業が実際に抱えている問題に取り組むことが出来ることも特徴のひとつです。

05 イノベーション創出と市場での競争力を高める

立命館アジア太平洋大学 国際経営学部出身 博士課程後期課程2回生
WU Dongjianさん

将来は、実社会における経営課題の解決に寄与できるコンサルタントになりたいと思い、MOT研究科に進学しました。研究科では製品やサービスを商品化・産業化するまでのプロセスに関する学問、すなわちイノベーション創出の仕組みを学んでいます。身に付けた知識と能力を駆使することで、将来は、独自性・新規性の高いイノベーションを生み、市場での競争力を図るような会社の一助になりたいと考えています。MOT研究科では、優しく親切な先生方に出会えました。研究に詳しくない新入生の時から、興味を持って質問したことに対して、親切に丁寧に指導して下さいます。学生が自由に楽しく研究を行える環境であることから、MOT研究科を皆さんに勧めたいと思います。

06 経験・知見を活かし、さらなる成長に向けた技術経営

株式会社近鉄エクスプレス 常務執行役員 博士課程後期課程2回生
齊藤真さん

海外駐在を経験して、今後も変化する事業環境に柔軟に対応するには、これまでの経験と知見だけでは限界があることを痛感しました。海外企業のエグゼクティブには博士学位取得者も多いことから、技術経営の形式知化、体系化を学ぶMOT研究科に入学しました。現在は物流データの多面的な活用に関する研究を進めていますが、経営全般について深く考察し、文章化することで論理的思考力の育成に役立っています。研究室には様々な出自の学生が集い、研究テーマも多岐にわたることから、取り組み方、進め方も多様であり、研究の進捗発表を通じて多くの発見を得る毎日です。

Faculty 実務経験豊富な教員・講師陣

青山 敦 Atsushi AOHYAMA 教授 / Ph.D. (パデュー大学) (株)DataVision 代表取締役

【研究分野】 研究開発マネジメント、イノベーションマネジメント、価値の探究と創出、デジタルトランスフォーメーション、リスクマネジメント

【経歴】 三菱総合研究所、英国ロンドン大学インペリアルカレッジ研究員、東京工業大学資源化学研究所助教授

ICTの進歩には目を見張るものがあり、画像 / 音声 / テキスト / バイタルデータ / センサーデータなど多様な情報を大量 / 高速 / 安価に距離の制限なく人や機械から収集し複雑な処理を行い、人や機械にフィードバックすることが可能になりつつあります。ICTの特徴を活かし、イノベーションをシステマティックに創出しビジネスを持続可能にする方法を研究しています。ICTの社会受容性研究も行っています。たとえば、ICT活用介護サービスが事業者 / 介護者 / 高齢者 / 家族 / 地域社会に受け入れられる条件を解明しようとしています。ICTを活用してビジネスマネジメントそのものを革新する研究も行っています。計算機による自然言語処理によって企業内に存在する膨大な情報資源を高度に活用し、ICTと行動科学を組み合わせることで、企業を良い方向に誘導できると考えています。

枝川 義邦 Yoshikuni EDAGAWA 教授 / 博士(薬学、東京大学)、経営学修士(専門職、早稲田大学)

【研究分野】 人を中心とした経営システム、脳神経科学、マーケティング、人材育成、組織開発、新規事業開発

【経歴】 名古屋大学助手、早稲田大学准教授・教授、カリフォルニア大学 ロサンジェルス校客員研究員等

経営資源における「ひと」の役割は、ますます重みを増しています。他の経営資源を活かすことからイノベーションの創出を支えることまで、あらゆる場面で人の活躍が望まれます。近年では、脳の働きを可視化する技術の進展が著しく、私たちの日常生活や仕事をする多くの場面で脳の活動性を計測し、その結果を解釈できるようになってきました。このような新しい技術を活用し、経営学や経営工学、脳神経科学・生理学、認知科学など、歴史を重ねる複数の研究分野を融合させた多層的なアプローチをすることで、世の中をシステムとして捉え、その一場面を解釈し、社会に活かすための研究をしています。様々な分野への興味を持ち、それらを融合させ、ものごとの解明や実社会での展開について学術的なアプローチを進めることに興味をお持ちの方を歓迎しています。

小田 哲明 Tetsuaki ODA 教授 / 博士(工学、東京大学)、弁理士、米国弁理士

【研究分野】 知財戦略、知財マネジメント、医療福祉

【経歴】 フィネガン法律事務所(米国)、スタンフォード大学APARC客員研究員、大阪大学工学研究科特任准教授、東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授

専門分野は、知財マネジメント、地域ブランド、ウェル・エイジングです。「知的財産(特許)を活用した経営戦略」として、企業の知的財産活動について研究しています。①ケーススタディを中心とした特許・デザイン・ブランド戦略分析、②データ解析による知的財産評価、③地域ブランドの活性化、④産学連携などについて研究しています。知的財産にはデザイン・ブランドも含まれ、とても身近なものです。また、近年はウェル・エイジングの研究にも取り組んでいます。企業経営や高齢化社会において健康維持を図ることは、人生100年時代の到来により注目されている分野です。企業の戦略や健康データを分析できる柔軟かつ学習熱心な学生、企業へのインタビューを行える積極的な学生を希望します。

角埜 恭央 Yasuo KADONO 教授 / 博士(経営学、筑波大学)、工学修士・学士(京都大学)

【研究分野】 経営情報、技術経営、競争戦略、経営学

【経歴】 住友金属工業(現日本製鐵)、マッキンゼー(日米韓)、アクセンチュア、経営科学研究所(MSI)創業、スロベニアEMUNI大学客員教授

経営戦略と情報技術(IT)に関する分野で研究とコンサルティングに取り組んできました。主なテーマは、企業組織・社会とITの関係性を経営学の理論を用いて解明することです。例えば、企業経営におけるITの有効な利活用、ITベンダーのソフトウェア工学能力評価、アジアの電子商取引等です。DX、SNS等を含むイノベーションと社会の進化に関わるテーマにも広く興味を持って研究しています。自分が感じた具体的な問題意識に根ざし、世界の知見を活用した無垢なアイデアが、不確実性を増すこれからの社会に大きく貢献するでしょう。皆さんが「イノベーションで世界を変える」という高い志をもってチャレンジする姿を楽しみにしています。主要著書:“Management of Software Engineering Innovation in Japan”(Springer)、「ビジネス価値を創造するIT経営の進化」(日科技連)等。

黄 巍 Wei HUANG 准教授 / 博士(経営学、東京大学)

【研究分野】 製品開発論、イノベーション・マネジメント、ものづくり経営

【経歴】 東京大学経済学研究科特任助教、特任研究員

研究分野は製品開発論、イノベーション・マネジメント、ものづくり経営です。これまでは継続的な開発活動の特徴とする製品・産業における効果的な開発パターンについて調査・研究を進めてきました。現在はデータ(開発プロジェクトデータと産業データ)解析によるゲーム産業の開発活動に関する実証研究、ICTを活用した組織課題の可視化、ものづくり現場データの集約・連携について研究しています。当研究室は事例研究、統計分析及びマルチエージェント・シミュレーションなどの手法を用いて技術経営に関する研究を幅広く行っています。論理的思考能力及び実証研究能力の構築に粘り強く取り組み、主体的に学ぶ学生を希望します。

澤口 学 Manabu SAWAGUCHI 教授 / 博士(工学、早稲田大学)

【研究分野】 商品企画・開発マネジメント、イノベーションマネジメント、持続可能なカイゼン活動、デザイン思考型リスクマネジメント

【経歴】 鉄鋼系商社、産業能率大学教授、早稲田大学大学院創造理工学研究科経営デザイン専攻教授

澤口研では「社会マクロ環境と技術の発展を意識した商品企画メソッド」や「新興国と日本との持続可能なモノづくり」を主な研究テーマにしております。従って、常に企業との連携も考慮して理論と実践の両立を目指します。また本格的なAI時代の到来を見据えて、「AIに適したモノ・コトづくりアプローチ」も最近のテーマです。さらに近年は、COVID-19に象徴されるような時代の変革期を意識して、「不利益(Benefit of inconvenient)™」や“対極発想”によるデザインメソッドなどユニークなイノベーションにも挑戦しております。いずれも価値創造の研究テーマです。これらのテーマに興味を持たれた学生は、社会人、留学生も含めて大いに歓迎いたします。最近の著書:「不利益の実装(共著)」「近代科学者 Digital)」、「はじめての企画・開発メソッド(単著)」「(同友館) など



田中 邦明 Kuniaki TANAKA 教授 / 博士(工学、法政大学)

【研究分野】 生産システム、ものづくりシステム、生産戦略

【経歴】 オムロン(株)ものづくり革新本部生産技術センタ長、オムロングループ企業の生産会社(マレーシア)、設備製作会社(中国)グローバルでの急激で様々な環境変化は製造企業に大きな変革を求めています。日本の製造企業が再びグローバル競争力を獲得するには、これまで培ってきたものづくり競争能力を磨き続け、更にIoT/ロボット/AIなどの新技術を取込んだスマートファクトリーに代表される次世代ものづくりシステムを構築することが解決策の一つになります。次世代ものづくりシステムは、ものづくりに関する全プロセスをモジュール構造化の概念をベースに最適化することで実現できると仮説し、現実の製造企業の具体的課題を踏まえながら革新的コンセプトの提言や具体的方策についての研究を行います。ものづくりに課題認識を持ち革新的コンセプト構想力、その実現に向けたマネジメント力や実践力を磨くことで、ものづくりを牽引する企業人としての活躍領域が大きく広がります。

長平 彰夫 Akio NAGAHIRA 教授 / 博士(経営学、東北大学)

【研究分野】 研究開発マネジメント、イノベーション・マネジメント、リスク・マネジメント、知的財産マネジメント

【経歴】 北海道東北開発公庫(現日本政策投資銀行)、通商産業省(現経済産業省)資源エネルギー庁、東北大学大学院教授 北海道東北開発公庫(現日本政策投資銀行)を経て、東北大学大学院工学研究科の教授に就任し、2019年4月から立命館大学教授に。技術経営分野の中で、企業の研究開発マネジメント、とりわけ新製品・新サービスプロセスマネジメントを研究し、新製品・新サービス開発の前段階(ファジィ・フロント・エンド)が新製品・新サービスの成功に大きく寄与することを2008年の国際学術誌において世界で初めて明らかにしました。また、特許データを用いた経済分析において、従来の被引用数だけでなく、属性として、特許異議申立、無効審判の数、IPC分類数、発明者数、外国出願の有無、の複数の属性を用いた属性統合指標が有効であることを実証し、研究・イノベーション学会から最優秀論文賞を受賞しています。定量解析にもぜひ興味をもっていただきたいと思います。

名取 隆 Takashi NATORI 教授 / 博士(工学、東北大学)

【研究分野】 技術経営、中堅中小・ベンチャー企業論、新製品・新事業開発、オープンイノベーション

【経歴】 日本開発銀行(現日本政策投資銀行)

私は中堅中小・ベンチャー企業を対象に、イノベーション創出(新製品・新事業開発、オープンイノベーションを含む)、技術マーケティング、競争戦略などを研究してきました。金融機関に約30年勤務し、多くの分野、業界の調査経験があるため、どんなテーマでも対応できる点が強みです。ゼミの学生は、研究テーマを自由に選択しており、業種などの限定はなく、多方面に亘っています。学生の研究テーマは、マーケティング、イノベーションの普及、新製品・新事業開発の分野が従来は比較的多く、近年ではネット、スマホアプリ、ゲーム関連のテーマが増えています。研究方法は、アンケートデータ等の統計分析による定量分析と、事例分析等による定性分析のどちらも指導が可能です。皆さんにはユニークで挑戦的な研究を期待しています。

古田 克利 Katsutoshi FURUTA 教授 / 博士(技術・革新的経営、同志社大学)

【研究分野】 経営管理論、人的資源管理論、組織行動論、産業・組織心理学、カウンセリング心理学

【経歴】 富士通(株)、(株)松下情報システムテクノロジ(現 パナソニックシステムデザイン(株))、関西外国語大学英語キャリア学部准教授 専門分野は、経営管理論、人的資源管理論、組織行動論、産業・組織心理学、カウンセリング心理学です。これまで「人と組織に着目したグローバル企業によるイノベーション創出の国際比較研究」「理系女性研究者の出産・育児と多様なキャリアの形成に関する縦断研究」「第三段階教育における往還的コンピテンシー形成と学位・資格枠組みの研究」等の研究プロジェクトに携わってきました。現在は、組織で働くプロフェッショナル人材のマネジメントに関する研究を行っています。ダイバーシティ・マネジメント、組織開発、リーダーシップ、キャリア開発、健康経営等、興味関心の幅は広いですが、その中心にある研究対象はイノベーションを生み出す人と組織です。社会科学の学術知を創出する方法や、体系的な知を実践に生かす方法を大学院で学んでみませんか。

湊 宣明 Nobuaki MINATO 教授 / 博士(システムエンジニアリング学、慶應義塾大学)

【研究分野】 マーケティング、技術経営、デザイン科学、システム・ダイナミクス、宇宙・航空イノベーション

【経歴】 宇宙航空研究開発機構、慶應義塾大学助教、特任准教授、シンガポール国立大学客員研究員

宇宙航空研究開発機構(JAXA)での勤務とフランス留学の経験を経て、大学で技術経営学、イノベーション、製品設計、ビジネス開発の教鞭を執るようになりました。私の専門はマーケティング論、航空宇宙管理論、システム工学で、宇宙航空領域でのシステム設計やマネジメント技術をビジネスの最適化や意思決定に応用することが強みです。全体と部分のバランスを重視したシステムデザインに基づき、技術起点の製品・サービス設計、事業化と普及戦略、社会技術システムの長期的なシミュレーション評価を主な研究対象としています。イノベーションは個性の邂逅と融合から生まれると考え、研究室として多様な学生が自由にテーマを探究する「研究のサファリパーク」を目指しています。



ゲストスピーカー

現場の第一線で活躍する実務家や国内外の一流企業および最先端研究機関から招聘しています。(過年度実績)

- SAP ジャパン株式会社: SAP University Alliances Lead 阿部 理央
- オムロン株式会社: GPQ 物流統轄室国際物流部 経営基幹職 中村 正
- 株式会社鴻池組: 建築事業総轄本部技術統括部 担当部長 岩下 智
- 東北大学: 工学研究科 特任教授 泉 秀明
- 日鉄ケミカル&マテリアル株式会社: 執行役員 コンポジット事業部長 下条 恵一
- 日本光電工業株式会社: シニアフェロー 永田 鎮也
- 三菱電機株式会社: 本社 人事部 人材開発センター 主管講師 織田 昌雄
- 持田製菓株式会社: 事業開発本部 知財担当理事 石川 浩
- 湯快リゾート株式会社: 代表取締役社長 西谷 浩司
- 早稲田大学: 教授 三原 康司

(敬称略・役職名は招聘時のものです)

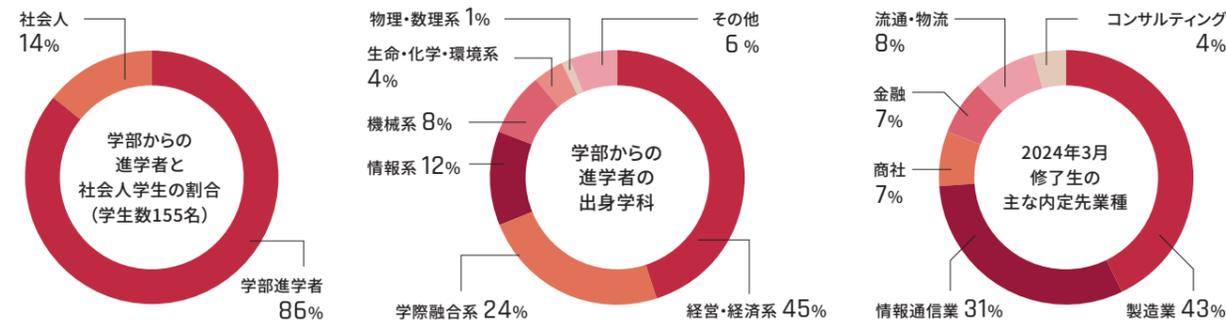
Information

主な内定先・就職先一覧

※過去の修了生を含む

- | | | | |
|--------------------|-----------------------|-----------------|------------------------|
| ■ アクセンチュア(株) | ■ (株)資生堂 | ■ 日亜化学工業(株) | ■ 三菱商事(株) |
| ■ アース製薬(株) | ■ (株)島津製作所 | ■ ニチコン(株) | ■ 三菱電機(株) |
| ■ 旭化成(株) | ■ ジョンソン・エンド・ジョンソングループ | ■ 日本アイ・ピー・エム(株) | ■ (株)三菱UFJ銀行 |
| ■ アビームコンサルティング(株) | ■ Sky(株) | ■ 日本通運(株) | ■ 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) |
| ■ (株)イシダ | ■ 住友電気工業(株) | ■ 日本電気(株) | ■ (株)村田製作所 |
| ■ NTTコミュニケーションズ(株) | ■ (株)セブーン・イレブン・ジャパン | ■ 日本電産(株) | ■ LINEヤフー(株) |
| ■ オムロン(株) | ■ ソフトバンク(株) | ■ (株)野村総合研究所 | ■ ヤマハ発動機(株) |
| ■ キヤノン(株) | ■ TIS(株) | ■ (株)博報堂プロダクツ | ■ ユニ・チャーム(株) |
| ■ キュービー(株) | ■ 東京ガス(株) | ■ パナソニックコネクツ(株) | ■ 楽天(株) |
| ■ (株)キーエンス | ■ 東京電力ホールディングス(株) | ■ (株)日立製作所 | ■ リコージャパン(株) |
| ■ 経済産業省 | ■ トヨタ自動車(株) | ■ 富士通(株) | ■ ローム(株) |
| ■ KDDI(株) | | ■ (株)船井総合研究所 | |
| ■ 塩野義製薬(株) | | ■ 本田技研工業(株) | |

学生の構成(博士課程前期課程)



奨学金・研究助成制度

(詳細は入学試験要項)

1 立命館大学独自の奨学金・研究助成

1年次対象成績優秀者奨学金、2年次対象成績優秀者奨学金、学生会奨学金、研究実践活動補助金、英語論文投稿支援補助金、ティーチング・アシスタント(TA)等

2 学外機関による奨学金・支援制度等

日本学生支援機構大学院奨学金、民間財団・地方公共団体奨学金、日本学術振興会特別研究員制度等

RIMOT(立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科校友会)

RIMOT(立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科校友会)が、修了生ばかりでなく在学生もともに学ぶことができる「知識創造の場」を提供します。850名以上のメンバーを持つRIMOTのネットワークは、必ずあなたに価値をもたらします。

修了後は“Re”MOTできます。

今井 雄基 さん

博士課程前期課程修了/ネットワークシステムズ株式会社(ネットワークパートナーズ株式会社)に就任

RIMOTは立命館MOTの修了生を中心とした校友会組織です。技術経営をテーマにした各種イベント(勉強会・セミナー・ワークショップ・工場見学等)を企画・運営しています。私は学部卒業後すぐに立命館MOTへ進学しましたが、MOTの価値を実感したのは社会人になってからでした。RIMOTの活動に参画して10年以上経ちますが、RIMOTメンバーを始め、現役学生や教授、外部講師の方々など、MOTを共通のキーワードとしながらも、様々な価値観を持った人との出会いが私の社会人人生を支えてくれています。修了後の活躍の舞台は全国・世界へと広がりますが、貴方がMOTに触れる機会はより一層増えていくことでしょう。RIMOTはこれからもMOTを究めている場所を提供していきます。



入学試験情報

博士課程前期課程の入学時期は年2回(4月、9月)、2024年度に入学試験は4回実施します。

学期の始まりが9月の留学生の方や、転勤の可能性などで直前まで出願を決められない社会人の方が9月入学試験を受験されています。

博士課程後期課程の入学時期は年2回(4月、9月)、入学試験は日本語基準、英語基準、それぞれ年2回ずつ実施します。

博士課程前期課程(修士課程)

入学定員	70名	入学時期	4月・9月
標準修業年限	2年	学位名称	修士(技術経営)

2025年4月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
7月	学内進学 一般 社会人 外国人留学生 飛び級 APU特別受入	5/30(木)~6/13(木)	7/7(日)	7/18(木)
11月	学内進学 一般 社会人 外国人留学生 飛び級 APU特別受入	10/10(木)~10/24(木)	11/17(日)	12/5(木)
1月	学内進学 一般 社会人 飛び級 APU特別受入 理工2年次転入学 情報理工2年次転入学 生命科学2年次転入学	12/5(木)~12/19(木)	1/26(日)	2/13(木)
2月	学内進学 一般 社会人 飛び級 APU特別受入	1/9(木)~1/23(木)	2/15(土)	2/27(木)

博士課程後期課程(博士課程)

入学定員	5名	入学時期	4月・9月
標準修業年限	3年	学位名称	博士(技術経営)

2025年4月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
11月	一般(英語基準)	10/10(木)~10/24(木)	別途連絡	12/5(木)
1月	一般(日本語基準)	12/5(木)~12/19(木)	1/26(日)	2/13(木)

選考方法

※詳細は入学試験要項でご確認ください。

博士課程前期課程

[一般・飛び級・外国人留学生]

小論文、面接

[学内進学・社会人・APU・転入学]

書類選考、面接

博士課程後期課程

[一般(日本語基準)]

書類選考、面接試験、論文試験(修士論文あるいはそれと同等の著作物、および研究計画書をもって論文試験にあて、面接試験で試問を実施)

[一般(英語基準)]

書類選考、面接試験または電話等でのインタビュー(英語で実施)